

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスMOKSHA		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 20日		2025年 3月 2日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	2025年 2月 19日		2025年 3月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員配置の適切さ： 職員数について「はい」が高く、他のデイサービスと比べて多いという評価あり。	構造化された環境整備： 視覚的な工夫やスペース分けなどで、子どもがわかりやすく過ごせる環境を工夫している。	保護者からのフィードバック活用：c 保護者意見を定期的に集め、個別対応や改善策に反映する仕組みを整える。
2	設備面での配慮： 完全なバリアフリーでない部分も、スタッフの介助で対応できているなど、柔軟な対応力が評価されている。	職員間の連携： 職員数が多いことで、個別対応や危機管理などにも柔軟に対応できている。	活動内容の見える化： 保護者に対して日々の活動をもっと視覚的・具体的に伝える工夫があると良い。
3	基本的な安全対策や管理体制： チェック項目において、全般的に「はい」の割合が高い項目が多い。	活動内容の柔軟な調整： 子どもの状態に応じて活動を組み替えたり、配慮した対応をしている様子がうかがえる。	研修の充実： 職員のスキルアップや外部研修参加を推奨し、さらに質の高い支援を提供。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	空間構造がわかりにくい箇所： 子どもによっては活動エリアが分かりづらい可能性がある。	物理的な施設環境の制限： 古い建物や構造的な制限によりバリアフリーが完全でない。	保護者との対話の機会拡充： 個々のチャットやアンケートだけでなく、懇談会や面談を通じて意見を吸い上げる機会を増やす。
2	「どちらともいえない」の回答が多い項目： 明確な意図や方針が伝わっていない、伝わりにくい環境があると推測される。	情報共有の不足： 支援内容や方針が保護者に伝わりきっていない可能性。	可視化された支援内容： 日々の活動や支援方法を視覚化して契約時の説明資料等にまとめる。また定期的に情報発信をする。
3	保護者アンケートの回収率に対する不安： 保護者自己評価シートの自由記述が少ないことや回収率の面から、今回の自己評価のやり方に課題や、保護者全体の声を反映できていない可能性がある。	職員間の業務分担の曖昧さ： 一部で役割分担が不明確なために意識にばらつきがある。また、定期的な業務に対する、内部での評価・振り返りの頻度が少ない可能性がある。	チーム内ミーティングの定例化： 職員全体での業務改善会議や共有ミーティングを定期的に実施し、意識の統一を図る。事業所内での、また社との情報共有の機会を増やす。